

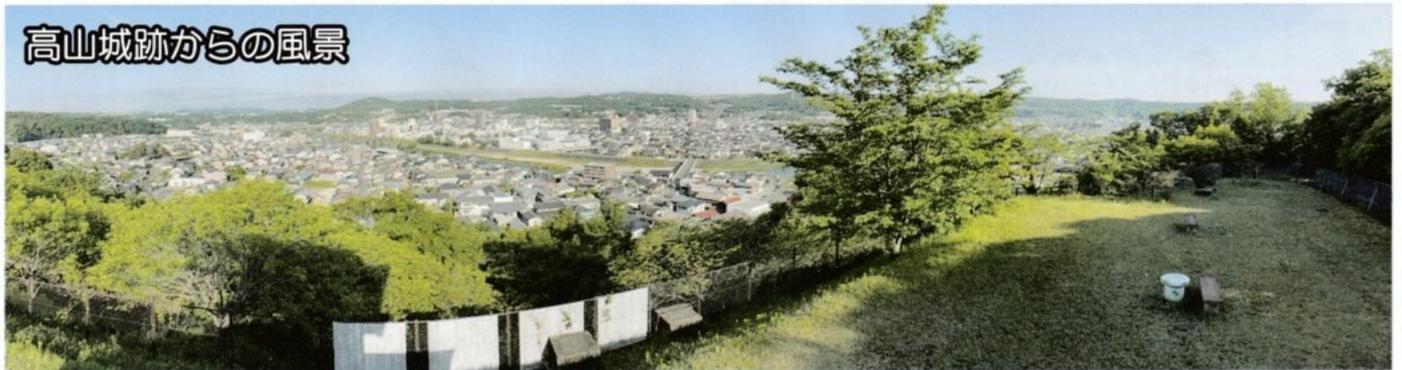
泉の自治だより

題字 加納 弘夫

No. 149

発行所 泉町連合区
 発行責任者 連合区会長 加納 弘夫
 事務局 (泉公民館内)
 土岐市泉中窯町 TEL 55-3653
 編集部長 伊藤 隆光

高山城跡からの風景



泉町連合区会の事業と役割

泉町連合区会会長
 加納 弘夫

泉町連合区会・二年目となりますが会長の加納でございます。

令和六年度の泉町連合区会総会を四月十二日(金)に開催し、各議案についてご承認をいただき、本年度をスタートすることとなりました。泉町連合区会の事業計画の中で、三点の主な事業について述べさせていただきます。

一点目は、周辺パトロールについてです。この活動は本年で二十一年目となり、『自分たちの街は自分たちで守る』から始まり、先輩の方々の精神が引継がれています。

現在駅周辺は以前と比べると格段に落ち着いていますが、駐輪場あるいは公園などを巡回することで、犯罪防止のけん制並びに抑止力となっていると考え、今後も各種団体様の協力を得

ながら継続的に実施してまいります。



駅周辺パトロール

二点目は、本年度二回目となる泉町スポーツ・フェスティバルです。開催日は十月六日(日)に泉中学校で開催、スポーツの楽しさを知って頂くことを目的とし、年齢を問わず身体を動かす日頃の運動不足を解消できる種目を模索しています。



泉町スポーツ・フェスティバル

三点目は、泉町文化祭ですが、十二月一日(日)に昨年と同様セラトピア土岐で

開催します。泉町民・団体の文化活動やその成果を広く発掘・募集し、合わせて公民館で活動する利用者の方々の研究成果等の発表と青少年育成活動として、ボランティア活動の育成並びに泉町民相互のふれあい・交流・地域おこしの活性化を目的としています。泉町スポーツ・フェスティバル及び泉町文化祭は、泉町連合区会、泉公民館、泉西公民館、泉町スポーツ協会の泉町四団体で『泉町文化・スポーツ協議会』を構成し運営しています。この三点の主な事業が、コロナ禍以降の新たなコミュニティの始まりになれど、と考えています。

話は変わりますが、今年に入り、能登半島地震や台湾地震などの天災を考えれば、災害発生後に私達自身が何を、どの様に対応した



泉町文化祭

ら良いのかを、予め考えて置かねばならないと感じています。

例えば、泉町にある八箇所の防災倉庫等を昨年、連合区会三役のみで点検致しました。やはり地区の区長さんや町内の方々と倉庫の点検を行い、『倉庫内に何かがあるか』等を知っておく事が、必要だと考えます。

今年度は連合区会・関係区長様並びに泉防災士会の方々の協力を得ながら三者で点検を行う計画です。

結びに私自身、自治活動を盛り上げる事が、地域の活力となり、泉町の元気で、明るい町づくりにつながると考えています。微力ではありますが、残りの一年を悔いの無いように活動いたしますので、各区長様、区役員並びに女性部役員の方々にも、ご苦勞をお掛けいたしますが、泉町連合区会へのご協力をお願いすると共に、合わせて泉町民の皆様からの絶大なるご支援を頂けるよう重ね重ねお願いいたします。私の挨拶とさせていただきます。

令和六年度 泉町連合区役員



会長 加納 弘夫 副会長(筆頭) 大富区長 木股 昭一 副会長 河合区長 種子島泰彦 副会長 定林寺区長 清水 信行 副会長 駅前区長 井口 敬司 副会長 久尻区長 中嶋 昌尚 総務 成瀬 幸芳 会計 加藤 有朋 女性部長 益田由香里 自治だより編集部長 伊藤 隆光

泉町連合区	会長	加納弘夫	副会長	中嶋昌尚	連合区女性部	連合部長	益田由香里	泉の自治だより編集部	編集部長	伊藤隆光
	副会長(筆頭)	木股昭一	総務	成瀬幸芳		副部長(会計)	稲垣妙子		編集副部長	小栗由香里
	副会長	種子島泰彦	会計	加藤有朋		副部長(書記)	勝野真由美		編集委員	丹羽和弘
	副会長	清水信行	事務	森本千賀		副部長	山口由果里		編集委員	今井英二
	副会長	井口敬司				副部長	磯部恭子		編集委員	和田輝夫

令和6年度各区役員・町内会世帯数等

泉町	町内会数	班数	世帯数	広報数	回覧数
	59	435	5,204	5,413	565

【泉町 人口 18,034人 面積29.43km²】 令和6年4月30日現在

河合区	役職	氏名	町内会名	町内会長名
	区長	種子島泰彦	賤ヶ洞	中村 博
	副区長	安藤高彦	上	高畑富美代
	副区長(会計)	加藤敦志	中野	渡辺恵二
			岩野	瀬瀬信夫
			山手	林 智久
			世帯数 270世帯	

定林寺区	役職	氏名	町内会名	町内会長名
	区長	清水信行	東	高橋栄一
	副区長	瀬瀬正紀	記念	成瀬昌幸
	副区長(会計)	稲垣喜治	本郷	犬塚 徹
			土居	水野 誠
			中川	丹羽勝彦
			宮前1	酒井竜彦
		宮前2	村上芳美	
		原	井村正美	
			世帯数 493世帯	

駅前区	役職	氏名	町内会名	町内会長名
	区長	井口敬司	東本	澤田健一郎
	副区長	後藤一雅	西本2	小倉利道
	会計	塚本 修	新土岐津東	西尾輝好
	事務局	黒田利行	新土岐津西	河村一己
			更生1	安江 武
			更生2	林 秀行
		中央	小栗英敬	
			世帯数 327世帯	

大富区	役職	氏名	町内会名	町内会長名	町内会名	町内会長名
	区長	木股昭一	東 窯	藤井利幸	森 下	山口浩敬
	副区長	栗野 薫	北 山	服部泰人	寺 島	安藤郷司
	副区長	伊東昭一	北山2	岡田俊彦	東 上	高橋信仁
	会計	水野宗平	中 窯	安藤幸浩	西 上	小林政彦
			西窯第1	山田 誠	主 税	永田寛彦
			西窯第2	加納 誠	大 和	山内康裕
			仲 森	小嶋一光	報 徳	山口武徳
			大 徳	木股由紀夫	平 和	山内康弘
			梅ノ木	太田光平	伊野川	和田浩一
			神 栄	原田 匡		
			島 田	安江年正		
					世帯数 2,102世帯	

久尻区	役職	氏名	町内会名	町内会長名	町内会名	町内会長名
	副区長	中嶋昌尚	緑ヶ丘	渡邊 豪	五斗蒔	土本勉夫
	副区長(総務)	佐藤建夫	緑ヶ丘東	佐藤義裕	五斗蒔東	樋口四士人
	々(行事)	永井浩二	日之出	長瀬浩一	五斗蒔西	山田美恵
	々(会計)	虎澤浩二	明 治	安井義二	泉が丘1	小木曾欣巳
			郷	土本義正	泉が丘2	小宮礼伊志
			岩 畑	鈴木秀幸	泉が丘3	岩島美紀子
			大坪1	川上由宇樹	泉が丘4	松原 滋
			大坪2	勝 由紀男	泉が丘5	勝木俊和
			寺下1	山本和彦	泉が丘6	片山幹夫
			寺下2	加藤達弘		
					世帯数 2,102世帯	

大富区 活動方針

大富区長 木股 昭一

四月六日(土)十八時より大富区二十町内会長の出席のもと区総会を開催して、今年度の運営方針、事業計画及び予算書を承認していただきました。

今年度のテーマは、「明るく住みやすい地域を作るため、住民の協力のもと防災・防犯活動をはじめ諸事業を実施する」と「先人たちの努力の賜物である大富区固有の財産、諸権利の管理・保全を図るとともに、大富山里山構想を継続して取り組む」の二点です。

令和六年は元日を一変させた能登半島地震という大きな災害で年が明けました。この地域は大きな災害は起きないと思ひ込み、事前の準備を怠っているといざという時に大変な事態になってしまいます。災害時に自治会ができることはわずかですが、「情報伝達」、「避難

誘導」、「避難行動要支援者の避難支援」、「安否確認」、「避難所の運営協力」などの役割が求められます。



そのためには町内会、連合区会と連携して準備をしていかななくてはなりません。行政の防災資機材等整備事業補助金を活用して設備の充実を図り、防災出前講座を活用して防災・減災に対する意識の向上が図ればよいと考えます。

また、毎月一回の児童・生徒の登校時交通安全指導を引き続き取り組みます。交通安全指導では、児童・生徒の安全の確保はもちろんのこと、併せて「おはよう」の声掛けをして明るい地域作りに努めていきます。次に大富山里山構想の継

続ですが、最近、大富山が樹木の立ち枯れによる倒木が多く山が荒れてきています。除去作業が必要ですが、区会の力だけでは解決しません。幸い、「大富山を愛する会」というボランティア組織があります。この組織や区民の方の力も借りながら持続可能な取り組みをしています。



シデコブシ

大富山は大規模な湿地帯が存在し、シデコブシ、ヘビノボラズ等貴重な湿地帯植物が自生しています。こ

この毎年、岐阜大学の研究観察の地域となつていきます。区民、市民の憩いの場になれば幸いです。事業計画は昨年度と同様にすべての行事を計画しております。特に「夏まつり」は猛暑を考慮して開催時間帯を午後四時からとし、多くの子どもさんや大人にも

楽しんでもらえるように計画中です。

最後に、本年度大富区の加入世帯数は二、一〇二世帯で昨年より十三世帯増です。

安心・安全で住みやすい街にするために一世帯でも多くの方が加入されることをお願いして挨拶とさせていただきます。

この一年間のご協力をよろしくお願いいたします。

河合区 活動方針

河合区長 種子島泰彦

申し上げます。

令和六年度泉町河合区の区長を務めさせていただきます河合上町の種子島泰彦と申します。区の運営に関して何も知らない私が区長を引き受けることは荷が重いですと強くお断りしたのですが前役員の方々の強い説得に負けてお引き受けすることになりました。今年一年間、区民の皆様、近隣の皆様には何かとお世話になります。よろしくお願いいたします。

さて、私の苗字からもご推察いただける方も大勢いらっしゃると思いますが、私のルーツは鹿児島の大隅地方に位置する離島で土岐市ではありません。土岐には縁あって二十六歳の時に子供の頃から住んでいた各務原から昭和六十年に転入して参りまして、はや三十八年の歳月が流れました。けれども勤務先が名古屋市だったこともあり地元との関係は区の年中行事や子供の学校行事に参加するぐらいの限定的な物で地元で深く根を張ってはいなかったと思います。ただ小中学校の父兄と一緒に汗を流した資源回収は結構汗をかきました。父兄との連帯感、よく言えば『絆』みたいなものがありました。今回区長を拝命するにあたり私の家族がこの町で育てていただいたことに感謝し、区民の皆様との『絆』をより強くできさせていただきます。私は今年度土岐市

が掲げているまちづくりの三つの柱のうち以下の二点に注力したいと考えます。一点目の「愛着のもてるまちづくり」に関しては良い子育てができる環境づくりをモットーに例年開催している夏や秋のお祭りが少しでも子供たちの思いでに残るように区民全員で盛り上げて行きたいと思えます。また二点目の「暮らしづくり」に関しては河合公民館を積極的に活用し区民の皆様が少しでも気軽に快適に集まれる場所にして行きたいと思えます。



八幡神社

最後に今後十年間にこの東海地区にも大きな地震が起る確率が七十%から八十%以上あると言われており住民の皆様一人一人の備えと助け合いがより必要になる時が来ると思えます。日頃の生活、区民行事、活

動を通して地元の絆をより強くしましょう。区民の皆様今年一年よろしくお願ひ申し上げます。

区長とつと 思ひつと

定林寺区長
清水 信行

本年度、定林寺区長を務めることになりました清水でございます。職責の重さに身の引き締まる思いをしております。

定林寺で生まれ育ち生活して、恩返しが出来ればと未熟な点が多々あると承知しておりますので、町内会役員メンバーを始めとして地域の皆様からご理解と協力のもと、精一杯務めさせて頂きますのでご指導ご鞭撻を頂きますよう宜しくお願い致します。

さて、コロナ禍で行事が中断され、去年より行事が再開しましたが、以前の様に活動できるか、私の力不足で皆様にご迷惑をかけてしまうか不安では有りますが、地域の皆様に理解を頂

き活動していきたいと思っております。

暮らしやすい環境とは、同じ地域に住む者同士、子どもたちが安心して過ごして、高齢者の方々が安心して生活できる区の繋がりが、町の繋がりが、班の繋がりが、大切にし、定林寺地区で暖かく見守り、時には手を差し伸べることでできる理解や協力が有ればこそと思っております。

正直、毎年役員を受け手が有りません。以前ある方から「自治会無くても生活できるから役員はやらなくても良い」と聞いたとき、反論することが出来ませんでした。今、無くすことは出来ないと思ひ区長を引き受けさせて頂いています。

報酬を出す区も有るようですが、それも一案ですが区費の値上げは難しいです。毎年なんとか役員をお願いしてきておりますが、少子高齢化による人口減少で受け手が無い年も出てくると思ひます。誰でも出来る区会と考えると、行事のための役員的一面もあり、伝統

行事を時代に合わせて再考するのも一案だと思います。毎年、同じ行事なら細部まで指示できる人がいれば新しい人でもやり易いと思ひます。行事を行うのは町内なので案に対して賛否はありと思ひます。

わが町、皆様と安心して暮らせる地域が願ひです。私は一年間、前年度の日程に従って進めていきますので、宜しくお願いします



観音堂



駅前区長としての ある想ひ

駅前区長 井口 敬司

まさに、突然の区長という責務に戸惑いました。お

引き受けした限り、この一年、精いっぱい頑張ります。どうか、宜しくお願いします。満七十二歳を迎えての挑戦です、私なりにお役に立ちたいと考えております。駅前区の生活は五十三年になります。あつという間でした。駅に近い便利な所有家があり、名古屋の学校と職場への通学・通勤と、フットワークを軽くしてくれましたが、妻や亡き母には、国内外出張の手間、早朝深夜の出勤帰宅と世話をかけ、言葉で伝えたことはありませんが、心から感謝しております。

三年ほど前まで会社勤めをしていました。仕事や他事を優先し、町内行事や子供会など、あまり参加は出来ませんでした。泉町連合区の定例行事で、気持ち合和らぐことがありました。子供たちが小学生の時、泉野球スポーツ少年団の育成会で共にした、現土岐市長の加藤さんや当時の父兄の方との再会でした。皆さんと時間を割き、育成会長の役割を果たしたことに、安

堵を覚えました。
あの泉小学校のグラウンドでの育成会総出のボール拾いやグラウンド整備、夏休みのキャンプ、盛大な入団式や卒団式で、家族と同じ時間を過ごせたことなど、忘れていた、楽しかった「思い出」という、ご褒美を頂きました。

話は変わります。私は、駅前区長と久尻神社の責任総代を兼務しています。会社リタイア後、志高く、やれることは引き受けるべきと、先輩から総代の熱い心構えの助言を受けました。それには、三年のスパーンで考え、一年目は学び、二年目は戦力となり、三年目は指導する立場を目指すとのことでした、神社での奉仕活動は人力作業が主であり、まずは、慣れない作業習得が大切です。

また、区長としては、区民の方から、週末の夜の違法駐車、大声で騒ぐなど、迷惑行為の苦情があります。一〇番通報での、パトカーの注意喚起で、一時的には収まるものの、一向に改

善されないとのこと。区の努力で解決できるよう、町内会長さんと今後の対策の検討を始めました。



土岐市駅前

私は、学生時代に「自治の精神」の教えを学びました。「人に迷惑を掛けない」、「人のお世話をする」、「決して報いを受けない」ことです。後藤新平の「自治三訣」の「自助」、「互助」、「自制」の援用ですが、祖母や母にも、良く言われましたが、学び舎の、先の見えない危機的な状況での啓示になりました。

混乱する大学紛争。体育会主導の「全学一斉清掃」の実力行動から、「在るべき自治」は動き始めた。母校の学生歌に「一つなぎ真理」という歌詞があります。悔

いのない行動が取れたのは、確信とする。「一つしかない真理」です。

あの経験は社会人への出発点であり、人生を照らす確かな松明となった。

久尻区自治会を

楽しんで

久尻区長 中嶋 昌尚

令和六年度の久尻区長の中嶋昌尚です。区長になって、自治会の前提として住みよい町づくりがあると思っています。先日第一回の区会を開催しました、久尻区は十九の町内があります、副区長さんと一緒に書類コピーしたり、資料を並べたりと協力して会場を作りました。まだまだ不慣れで迷惑をおかけしますが、現役員（三役、女性部）さんと一緒に協力して行こうと思っています。

私は、泉町に来て四十二年です、今年で七十二才なので人生の半分以上のこの地でお世話になっております。泉町で生活し子育てし

周りの人たちに助けられて、自分の人生の多くを過ごすことができ本当に感謝しかありません。区長就任の話が来た時も本音は弱ったなと思いつつも、今までの知らない世界や景色が見えるかなと、そんな場所がそこにあるのかなと、少し楽しみながら、それもまた面白いのかなと感じています。

ほんの五年前まで、(町内会長)をするまで、自分の生活に精一杯でしたがこれからは、泉町の風土や歴史



乙塚古墳



段尻巻古墳

やサークル等それに自治活動に目を向け、楽しみながら色々な知識を吸収して行きたいと思っています。

自治会役員の担い手不足の中でこのままでは自治会の存続まで危うくなっている中で、区民のみならず、気楽に役員(町内会長、区長等)に参加出来る、そして自治活動に目を向けていただくだけの組織にしていく必要があるのかなと思っています。

先輩方の大変な努力もあってパソコンデータや資料の整理等簡素化もされていますし、各業務もだいぶ少なくなってきたと聞いています。自治会活動もITの活用がされる時代になっていくと思います、私もほんの少しでも役員さんの業務が軽減できるように、私自身も努力していこうと考えています。久尻区の自治会も楽しい事や面白いこともいっぱいあると思います。皆さんも参加してみてください。最後に佐藤達夫副区長、虎澤浩二副区長、永井浩二副区長、どうぞこの一

年間よろしくお付き合いくださるようをお願いいたします。今後とも前任同様ご支援、ご協力を受け賜りますようよろしくお願いいたします。

女性部長に 就任して

女性部長 益田由香里

新緑がまぶしく木々花々も華やいできました。今春の桜はなかなか咲かず、入学式に合わせたかのように開花し、新生人の門出を祝っているかのようでした。私本年度泉町連合区女性部の益田です。皆様よろしくお願ひします。

私この泉町に転居してきて十五年になります。引越した当時小学生・保育園児だった子も早社会人、大学生です。その頃は慣れない環境で知り合いも無く寂しかったものです。オロオロしていた私達に、そつと声を掛けてくれた親子がいました。心がホットしたのを覚えていいます。その後彼女と

は「ママ友」になり、今でも親子で繋がりがあつた大切な存在です。私は子どものお陰で沢山の方々に逢ひ、助けて頂きました。

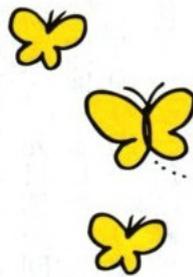
この女性部になり、子育て中にお世話になった方と再会出来たことは幸いでした。そして初対面の方にも声掛けすると……。何かしら縁が有る方がいるものです。

時の流れで私達「主婦」も労働時間が以前よりも増えてきています。ボランティア活動「女性部」で活動をして頂ける方は家事・仕事・育児・介護などで日頃から多忙です。一主婦が自由に使える時間はそんなに多く有りません。しかもこの活動の参加者は立候補ではありません。今問題になっている町内会未入の理由がこの女性部の活動であつてほしくないのです。負担なく、自主的な活動を行えるように、女性部を前進しようと思ひます。

まず連絡はラインを使い会合回数を減らします。小さな事ですが大幅な時間力

ツトです。出来る人が出来る事を出来る範囲で無理せず楽しくやる。これが本年度の目標です。

以前助けてくれた方にお礼を伝えると、お礼は「恩送り」他の人を助ける事なのだと言われました。皆様の助成に少しでもなれば幸いです。微力ですが本年一年宜しくお願ひいたします。



泉の自治だより 編集見直しについて

編集部長 伊藤 隆光

自治だよりはこれまで原則年四回モノクロで発行してきておりましたが、このほどカラー化と発刊の省力化としての三回の発行に変更する運びとなりました。

また、編集後記にも記載しましたが、連合区にお住

いの方々を紹介する記事を連載することとしました。

自治だよりを見て頂いている方々の中から「こんなことをしている方がみえるよ」とか「あの方は町内の方の為にあんなことをして見えるよ」とかを照会し合つて、連合区内の方々（個人以外に団体もOKです）を広く紹介し合つてはと思ひ連載を連合区の皆さんに了解して貰ひました。

自薦他薦は問いませんが、皆さんどしどし紹介や推薦をお願いします。

ただし、営利目的で行つている内容や行為は申し訳ありませんが、省かせて頂きます。

勿論、老若男女問わず、むしろお年寄りや小さいお子さんなど幅広く紹介して頂くと盛り上がると思ひますので！

自治だよりでは、今回より連合区内にお住いのこの方の方を是非紹介したい！という方を掲載する運びとなりました。

第一回目の方は、自治だよりそのもののホームページを作成管理したり、「泉町」地区の情報サイト「ホームページ」も作成管理して、集会所の管理を始める地区の行事予定や案内文書などもタイムリーにアップされている中、泉町内に在住の岡田能治さんです。

岡田さんは前述のホームページの運用のため、町内などの回覧文書のみならず、各種行事にはカメラを持ってリンク資料とされています。

常にアップロードされているため、その努力といいますが、労力は大変なものかと推察されます。自治だよりホームページ



連載 泉町 あの人この人

kama.3zoku.com/

The screenshot shows the homepage of kama.3zoku.com. At the top, it displays the date '今日は 2024 (R6)年 4月18日 木曜日 赤日' and navigation links like 'おみこみ', '会員登録', and '資料'. Below this, there are sections for '高クラブからのお知らせ' (Notice from High Club), '高クラブ使用予定' (High Club Usage Schedule), and a 'カレンダー' (Calendar) for 2024 (R6) year. The calendar shows dates from April 11 to April 25 with various events like '大富町会役員会' and '交通安全協議会'. There are also links to various local organizations and services.

には配布された翌日辺りに
は既に更新されているため、
我々編集部も感心しているか
頭が下がります。
皆さんも一度、岡田さん
が作成管理されているいろ
いろなホームページを検索
(大富白山神社・大富山を
愛する会) 閲覧してみてください
如何でしょうか？

人は猫を飼うなどで安ら
ぎを求めたり、慈愛の心か



「飼い主のいない猫」、
この言葉を聞いたことある
でしょうか？今までは野良
猫と呼ばれていましたが、
動物保護の観点からこう呼
ばれています。実は今、こ
の「飼い主のいない猫」、泉
町含め全国的に社会問題に
もなっているのです。
このことについて「飼い
主のいない猫」を保護され
ている宮腰裕子氏（河合区
「ドッグプランニング」にお
聞きしました。

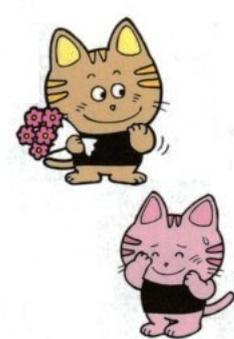


市ではこの五月から不妊
去勢手術の助成金が出る
よう、猫の保護など活動
がしやすくなります。宮腰
氏は、猫保護など困ったこ

「TNR」活動とは、野良
猫を捕獲し不妊・去勢手術
を行い、元の場所へ返す活
動のこと、猫の数が一番
早く減るといデータも出
ています。
不妊・去勢手術をする事
により、鳴き声、喧嘩、マ
ーキングが軽減され、一代
限りの命を全うします。

不妊手術をせず餌を与え
る行為はあつとゆう間に繁
殖して増え、発情に伴う鳴
き声、喧嘩、糞尿の被害な
どの問題がおきます。
このような猫たちは殺処
分されたりし、可哀そうな
最期を遂げたりします。人
の心の癒しから生まれた悲
劇と言えるでしょう。
現在、こういった猫と人
との共存のため「TNR」
活動が進められています。

らついつい近くに「飼い主
のいない猫」がいると餌を
与えるなどし、可愛がつて
しまいます。



みや猫活動



との相談活動もされ、必要
あれば連絡をくださいとの
ことでした。
泉町の猫保護を通じたコ
ミュニティ活動が広がるこ
と願うばかりです。



仲森公園近くを流れている伊野川では、「平成会（会長・各務憲司氏（取材時））の皆さんが、毎年ホタルの人工飼育から餌となるカワニナの捕獲、ホタルの放流まで会の皆さんが年数回集まって、作業しているところを取材させて頂きました。このホタルの人工飼育などを始められた理由を聞いてみたところ、ただの親睦会ではないので、何か地元のために何かしたいの思いから始めたとのこと。本当か冗談かは別として、編集員も飼育した水槽からホタルの幼虫を選別する作業を少しだけお手伝いしてみましたが、人海戦術で大変な作業であることは身をもって感じました。また、翌日は天気回復したため、伊野川の三か所に放流されたそうです。



例年では、六月ころにホタルの飛び交う姿が観察出来るそうですので、期待したいと思います。

令和6年度 泉町民野球大会



町民野球の組み合わせが決まりました！
どこが優勝するでしょう？
六月二日には決定する予定です。



kama.3zoku.com/rk/jichidayori.cgi

自治だよりHP

2023(第5)年度	2022(第4)年度	2021(第3)年度	2020(第2)年度	2019(第1)年度
No.148	No.144	No.141	No.137	No.133
2022(第4)年度	2021(第3)年度	2020(第2)年度	2019(第1)年度	2018(第0)年度
No.144	No.141	No.137	No.133	No.129
2021(第3)年度	2020(第2)年度	2019(第1)年度	2018(第0)年度	2017(第0)年度
No.141	No.137	No.133	No.129	No.125
2020(第2)年度	2019(第1)年度	2018(第0)年度	2017(第0)年度	2016(第0)年度
No.137	No.133	No.129	No.125	No.121
2019(第1)年度	2018(第0)年度	2017(第0)年度	2016(第0)年度	2015(第0)年度
No.133	No.129	No.125	No.121	No.117
2018(第0)年度	2017(第0)年度	2016(第0)年度	2015(第0)年度	2014(第0)年度
No.129	No.125	No.121	No.117	No.113
2017(第0)年度	2016(第0)年度	2015(第0)年度	2014(第0)年度	2013(第0)年度
No.125	No.121	No.117	No.113	No.109
2016(第0)年度	2015(第0)年度	2014(第0)年度	2013(第0)年度	2012(第0)年度
No.121	No.117	No.113	No.109	No.105
2015(第0)年度	2014(第0)年度	2013(第0)年度	2012(第0)年度	2011(第0)年度
No.117	No.113	No.109	No.105	No.101
2014(第0)年度	2013(第0)年度	2012(第0)年度	2011(第0)年度	2010(第0)年度
No.113	No.109	No.105	No.101	No.97
2013(第0)年度	2012(第0)年度	2011(第0)年度	2010(第0)年度	2009(第0)年度
No.109	No.105	No.101	No.97	No.93
2012(第0)年度	2011(第0)年度	2010(第0)年度	2009(第0)年度	2008(第0)年度
No.105	No.101	No.97	No.93	No.89
2011(第0)年度	2010(第0)年度	2009(第0)年度	2008(第0)年度	2007(第0)年度
No.101	No.97	No.93	No.89	No.85
2010(第0)年度	2009(第0)年度	2008(第0)年度	2007(第0)年度	2006(第0)年度
No.97	No.93	No.89	No.85	No.81
2009(第0)年度	2008(第0)年度	2007(第0)年度	2006(第0)年度	2005(第0)年度
No.93	No.89	No.85	No.81	No.77
2008(第0)年度	2007(第0)年度	2006(第0)年度	2005(第0)年度	2004(第0)年度
No.89	No.85	No.81	No.77	No.73
2007(第0)年度	2006(第0)年度	2005(第0)年度	2004(第0)年度	2003(第0)年度
No.85	No.81	No.77	No.73	No.69
2006(第0)年度	2005(第0)年度	2004(第0)年度	2003(第0)年度	2002(第0)年度
No.81	No.77	No.73	No.69	No.65
2005(第0)年度	2004(第0)年度	2003(第0)年度	2002(第0)年度	2001(第0)年度
No.77	No.73	No.69	No.65	No.61
2004(第0)年度	2003(第0)年度	2002(第0)年度	2001(第0)年度	2000(第0)年度
No.73	No.69	No.65	No.61	No.57
2003(第0)年度	2002(第0)年度	2001(第0)年度	2000(第0)年度	1999(第0)年度
No.69	No.65	No.61	No.57	No.53
2002(第0)年度	2001(第0)年度	2000(第0)年度	1999(第0)年度	1998(第0)年度
No.65	No.61	No.57	No.53	No.49
2001(第0)年度	2000(第0)年度	1999(第0)年度	1998(第0)年度	1997(第0)年度
No.61	No.57	No.53	No.49	No.45
2000(第0)年度	1999(第0)年度	1998(第0)年度	1997(第0)年度	1996(第0)年度
No.57	No.53	No.49	No.45	No.41
1999(第0)年度	1998(第0)年度	1997(第0)年度	1996(第0)年度	1995(第0)年度
No.53	No.49	No.45	No.41	No.37
1998(第0)年度	1997(第0)年度	1996(第0)年度	1995(第0)年度	1994(第0)年度
No.49	No.45	No.41	No.37	No.33
1997(第0)年度	1996(第0)年度	1995(第0)年度	1994(第0)年度	1993(第0)年度
No.45	No.41	No.37	No.33	No.29
1996(第0)年度	1995(第0)年度	1994(第0)年度	1993(第0)年度	1992(第0)年度
No.41	No.37	No.33	No.29	No.25
1995(第0)年度	1994(第0)年度	1993(第0)年度	1992(第0)年度	1991(第0)年度
No.37	No.33	No.29	No.25	No.21
1994(第0)年度	1993(第0)年度	1992(第0)年度	1991(第0)年度	1990(第0)年度
No.33	No.29	No.25	No.21	No.17
1993(第0)年度	1992(第0)年度	1991(第0)年度	1990(第0)年度	1989(第0)年度
No.29	No.25	No.21	No.17	No.13
1992(第0)年度	1991(第0)年度	1990(第0)年度	1989(第0)年度	1988(第0)年度
No.25	No.21	No.17	No.13	No.9
1991(第0)年度	1990(第0)年度	1989(第0)年度	1988(第0)年度	1987(第0)年度
No.21	No.17	No.13	No.9	No.5
1990(第0)年度	1989(第0)年度	1988(第0)年度	1987(第0)年度	1986(第0)年度
No.17	No.13	No.9	No.5	No.1
1989(第0)年度	1988(第0)年度	1987(第0)年度	1986(第0)年度	1985(第0)年度
No.13	No.9	No.5	No.1	No.1
1988(第0)年度	1987(第0)年度	1986(第0)年度	1985(第0)年度	1984(第0)年度
No.9	No.5	No.1	No.1	No.1
1987(第0)年度	1986(第0)年度	1985(第0)年度	1984(第0)年度	1983(第0)年度
No.5	No.1	No.1	No.1	No.1
1986(第0)年度	1985(第0)年度	1984(第0)年度	1983(第0)年度	1982(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1985(第0)年度	1984(第0)年度	1983(第0)年度	1982(第0)年度	1981(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1984(第0)年度	1983(第0)年度	1982(第0)年度	1981(第0)年度	1980(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1983(第0)年度	1982(第0)年度	1981(第0)年度	1980(第0)年度	1979(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1982(第0)年度	1981(第0)年度	1980(第0)年度	1979(第0)年度	1978(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1981(第0)年度	1980(第0)年度	1979(第0)年度	1978(第0)年度	1977(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1980(第0)年度	1979(第0)年度	1978(第0)年度	1977(第0)年度	1976(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1979(第0)年度	1978(第0)年度	1977(第0)年度	1976(第0)年度	1975(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1978(第0)年度	1977(第0)年度	1976(第0)年度	1975(第0)年度	1974(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1977(第0)年度	1976(第0)年度	1975(第0)年度	1974(第0)年度	1973(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1976(第0)年度	1975(第0)年度	1974(第0)年度	1973(第0)年度	1972(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1975(第0)年度	1974(第0)年度	1973(第0)年度	1972(第0)年度	1971(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1974(第0)年度	1973(第0)年度	1972(第0)年度	1971(第0)年度	1970(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1973(第0)年度	1972(第0)年度	1971(第0)年度	1970(第0)年度	1969(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1972(第0)年度	1971(第0)年度	1970(第0)年度	1969(第0)年度	1968(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1971(第0)年度	1970(第0)年度	1969(第0)年度	1968(第0)年度	1967(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1970(第0)年度	1969(第0)年度	1968(第0)年度	1967(第0)年度	1966(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1969(第0)年度	1968(第0)年度	1967(第0)年度	1966(第0)年度	1965(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1968(第0)年度	1967(第0)年度	1966(第0)年度	1965(第0)年度	1964(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1967(第0)年度	1966(第0)年度	1965(第0)年度	1964(第0)年度	1963(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1966(第0)年度	1965(第0)年度	1964(第0)年度	1963(第0)年度	1962(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1965(第0)年度	1964(第0)年度	1963(第0)年度	1962(第0)年度	1961(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1964(第0)年度	1963(第0)年度	1962(第0)年度	1961(第0)年度	1960(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1963(第0)年度	1962(第0)年度	1961(第0)年度	1960(第0)年度	1959(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1962(第0)年度	1961(第0)年度	1960(第0)年度	1959(第0)年度	1958(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1961(第0)年度	1960(第0)年度	1959(第0)年度	1958(第0)年度	1957(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1960(第0)年度	1959(第0)年度	1958(第0)年度	1957(第0)年度	1956(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1959(第0)年度	1958(第0)年度	1957(第0)年度	1956(第0)年度	1955(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1958(第0)年度	1957(第0)年度	1956(第0)年度	1955(第0)年度	1954(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1957(第0)年度	1956(第0)年度	1955(第0)年度	1954(第0)年度	1953(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1956(第0)年度	1955(第0)年度	1954(第0)年度	1953(第0)年度	1952(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1955(第0)年度	1954(第0)年度	1953(第0)年度	1952(第0)年度	1951(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1954(第0)年度	1953(第0)年度	1952(第0)年度	1951(第0)年度	1950(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1953(第0)年度	1952(第0)年度	1951(第0)年度	1950(第0)年度	1949(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1952(第0)年度	1951(第0)年度	1950(第0)年度	1949(第0)年度	1948(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1951(第0)年度	1950(第0)年度	1949(第0)年度	1948(第0)年度	1947(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1950(第0)年度	1949(第0)年度	1948(第0)年度	1947(第0)年度	1946(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1949(第0)年度	1948(第0)年度	1947(第0)年度	1946(第0)年度	1945(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1948(第0)年度	1947(第0)年度	1946(第0)年度	1945(第0)年度	1944(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1947(第0)年度	1946(第0)年度	1945(第0)年度	1944(第0)年度	1943(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1946(第0)年度	1945(第0)年度	1944(第0)年度	1943(第0)年度	1942(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1945(第0)年度	1944(第0)年度	1943(第0)年度	1942(第0)年度	1941(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1944(第0)年度	1943(第0)年度	1942(第0)年度	1941(第0)年度	1940(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1943(第0)年度	1942(第0)年度	1941(第0)年度	1940(第0)年度	1939(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1942(第0)年度	1941(第0)年度	1940(第0)年度	1939(第0)年度	1938(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1941(第0)年度	1940(第0)年度	1939(第0)年度	1938(第0)年度	1937(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1940(第0)年度	1939(第0)年度	1938(第0)年度	1937(第0)年度	1936(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1939(第0)年度	1938(第0)年度	1937(第0)年度	1936(第0)年度	1935(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1938(第0)年度	1937(第0)年度	1936(第0)年度	1935(第0)年度	1934(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1937(第0)年度	1936(第0)年度	1935(第0)年度	1934(第0)年度	1933(第0)年度
No.1	No.1	No.1	No.1	No.1
1936(